



編集・発行 邑楽町役場企画課  
〒370-0692 (住所記入不要)  
☎ 0276-88-5111 (代表)  
☎ 0276-47-5007 (企画課直通)  
☎ 0276-89-0136  
URL <http://www.town.ora.gunma.jp>  
E-mail [koho@town.ora.gunma.jp](mailto:koho@town.ora.gunma.jp)

邑楽町携帯サイト  
2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。  
携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>



〈第五十二回〉

若い人たちに語り継ぎたい、  
次の世代に残しておきたい。  
貴重な話をお届けしますー。

## あすへひとこと

いつの時代までも残したい

### 邑楽町の昔ばなし

勢多郡三夜沢の赤城本宮を勧請したものですから、大己貴神オホニギハヤヒほか祭神になっています。神仏分離で別当寺の泉福寺から分離して上坪谷の鎮守となり、氏子たちで祭られました。旧暦11月15日が祭日で、世話番は年々回り番で宿を勤め、夜は浪曲や祭文語りの芸人を招いてにぎわいました。昭和の初期まで宮守がいましたが、昭和5年、三島神社に合祀されました。昭和47年までは赤城講の人たちが本宮参りをしましたが、現在は世話人が交代で参詣しています。なお、合祀した三島神社は静岡県三島市にある本山からいつのころか勧請したもので祭神は事代主神ほかです。赤城神社も三島神社も長柄族が長柄神社と同様に、祖先神として信仰して勧請したことが伺われます。

こうした祭り行事も昭和30年ころまでは続いていたようですが、いつの間にか消えてしまいました。それでも、現在も祭り番、神社総代、有志らが集まって神主の村中無事息災の祈禱を受け、酒肴でお祝いをしています。時代の流れで信仰心も薄れ、昔のようなにぎやかなお祭りではありませんが、住民が順番制で祭りを務めています。



坪谷の信号を西に進み、右の路地に入ると見えてくる赤城神社。社の札には「赤城神社、三島神社」と合祀されているのが分かります

### 赤城神社

赤城神社は篠塚上坪谷西部の小高い、赤城山を遠く望むにふさわしい土地に祭られていました。いつごろ建立されたかは定かではありませんが、江戸時代の古文書にははっきり記されています。

長良神社が多く利根川近くに祭られているのに対し、赤城神社は邑楽地方では渡良瀬川沿いの地域に祭られています。ここ篠塚に祭られているのは珍しいことです。

勢多郡三夜沢の赤城本宮を勧請したものですから、大己貴神オホニギハヤヒほか祭神になっています。神仏分離で別当寺の泉福寺から分離して上坪谷の鎮守となり、氏子たちで祭られました。旧暦11月15日が祭日で、世話番は年々回り番で宿を勤め、夜は浪曲や祭文語りの芸人を招いてにぎわいました。昭和の初期まで宮守がいましたが、昭和5年、三島神社に合祀されました。昭和47年までは赤城講の人たちが本宮参りをしましたが、現在は世話人が交代で参詣しています。なお、合祀した三島神社は静岡県三島市にある本山からいつのころか勧請したもので祭神は事代主神ほかです。赤城神社も三島神社も長柄族が長柄神社と同様に、祖先神として信仰して勧請したことが伺われます。

### 一本木弁天様

一本木の観音橋の東側に、子どもの遊具がいくつかある小さな遊園地があります。この遊園地の隅のほうにコンクリート製のほこらがあります。これが弁天様です。

40年ほど前までは、ここに観音様があつてその後ろが遊水池のようでした。もともとは弁天様は遊水池の中州にありましたが、洪水で流されて現在のものになったといえます。

弁天様の祭礼は春と秋の2回。巳の日に行われました。昔は大勢の人が集まったものです。神主の呼びかけで太鼓が鳴って、それを合図に村人たちが集まって来ました。赤飯を頂く人の列ができ、祭り番の人たちは集まった人に飯台からしゃくしで赤飯をよそってくれました。

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会  
平成10年12月31日発行「高齢者の語り(第六集)あすへひとこと」より



空に向かって  
(多々良沼)



Photo 高根澤高明(記録ボランティア)

### ひとりごと From editors

▶子どものころ、わが家には大きな柿の木がありました。実が赤になると、私は包丁を持って木に登り、木の上で皮をむいて食べたものです。甘くて、とてもおいしかったです。▶以前は多くの家に柿の木がありました。昔は子どものおやつのために植えたとも聞きます。お菓子が貴重だった時代、大きな木いっぱい甘い実をつける柿の木は、まさに「宝の木」だったことでしょう。▶しかし、最近では柿の木のある家は少なくなりました。子どものおやつとなるお菓子もたくさんあります。これも時代の流れなのかも知れません。▶かつて子どもたちの食欲を満たし、庭の人気者だった柿の木。一つの役割を終えたのでしょうか。夕日に映える柿の木を見るたび、ちょっぴり寂しい気分になります。(田中)



この広報誌は、自然保護のため  
植物油インキを使用しています。